

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371600640		
法人名	(有)アメニティホーム		
事業所名	アメニティホーム塩釜 2F		
所在地	愛知県名古屋市中白区元八事3丁目321番地		
自己評価作成日	令和5年9月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2371600640-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和5年11月20日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が安全に安心して穏やかに生活していただけることを第一に考え、スタッフによる手作りの食事やこれまでやってきた家事手伝いなどの分担とやりがいを家庭生活の延長としADLの低下防止や生活の支援に努めております。  
 これまで以上に感染予防、虐待や身体拘束に対する防止策を徹底しており、医療面でも主治医はもちろん他専門医療機関とも繋がりをもち緊急時や専門分野においても敏速に対応できるようにしています。  
 利用者様はもちろんご家族様にも安心と信頼がおけるグループホームを目指しております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、同一建物内にデイサービスと居宅介護支援を併設して運営していることで、地域の方の様々なニーズに合わせた支援が行われている。利用者の中には、併設のデイサービスを利用しながら利用者や家族の様々な状況等にも合わせてグループホームに移行された方もあり、利用者の円滑な生活場所の移行にもつながっている。当ホームは、併設事業所を含めて地域に密着した様々な取り組みが行われていることもあり、感染症問題が長期化している中で外部の方との交流が困難な状況が続いている中であっても、地域の方や地域包括支援センターの活動に可能な限り参加、協力する取り組みが行われている。また、医療面での連携も協力医や看護師との密な連携が行われていることで身体状態が重い方も住み慣れた地域とホームでの生活を継続できるような支援が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各フロア入口に理念を掲げ、また生活記録ファイルにも掲載し 定期的にミーティング等でも確認している 新人スタッフにもオリエンテーションで伝えている	基本理念を支援の基本に考えながら、理念をホーム内に掲示する等、日常的に理念を意識するような機会につなげている。職員研修等の機会を通じて、理念の実践につながるような働きかけも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	感染予防対策はしながら近隣の方に事業所のイベントに参加していただいたり、地域の子育てサロンとの交流もあり繋がりは続いている	地域の方との交流については、併設のデイサービスも含めて行われている。地域で行われている敬老会や子ども会等、可能な範囲で地域の方との交流を継続しており、ホームを知ってもらう機会につなげている。	ホームでは、併設事業所を含めて、徐々に地域の方との交流を再開しているが、現状、限られた範囲となっていることある為、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括から相談や近隣の方からも電話などで相談もありますのでしっかり親身になって対応させていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響で様子を見ながらオープンにしますが、参加できない家族などへはお手紙などでアンケートによる意見や要望を聞いたりSNSを用いて状況報告や意見交換をして向上に努めている	会議については、ホームの行事等を見てもらう機会をつくりながら、会議の関係者との交流を継続する取り組みが行われている。また、併設のデイサービスと連携した会議も実施しており、事業所全体の運営状況を知ってもらう機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や施設のイベント等の情報を送り継続的に協力を得るように心掛けている	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設のデイサービスや居宅介護支援を通じても行われている。ホームからも地域包括支援センターと連携した行事に参加、協力する等、運営への反映につなげる取り組みも行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会は3か月毎に定期的にカンファレンス・ミーティングで指針の見直しや研修を行い身体拘束ゼロを継続してケアに努めている	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内に施錠を行わないように、職員間で連携した利用者の見守り等が行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会を通じた検討や職員研修を実施し、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束同様定期的研修を行い虐待のない施設作りを意識している 管理者は常に職員とコミュニケーションを図り意見や相談をうけアドバイスしたり、利用者様の状態を把握している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	名古屋市の研修に参加し資料等職員で共有できるようにしている 必要に応じて管理者が対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族の不安や要望、意見などをしっかり聞き入れてからひとつずつわかりやすいように説明し納得していただいてから契約に至っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常日頃から職員も家族様とのコミュニケーションが取れており意見・要望が言いやすい環境が整っているためその場で意見や相談に乗ることが多く管理者と家族は常に連絡が取れる関係性が出来ている	ホームでは、家族との交流界を再開しており、家族の参加が得られている。法人代表者が併設事業所に日常的に勤務しており、利用者や家族からの要望等にも柔軟に対応している。また、毎月の便りの作成の他にも、LINEを活用した情報発信も行われている。	感染症問題が起きる前までは、年間を通して家族との交流の機会をつくっていたこともあるため、今後の状況をみながら、家族との交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のカンファレンスミーティングで、意見や提案の機会を設けている。 常に管理者は職員の近くにおり、すぐにコミュニケーションをとり個別でも相談できる環境も作っている	毎月の職員会議や日常的な意見交換等を通じて出された意見等は、管理者を通じて法人代表者にも伝えられ、ホームの運営への反映につなげている。また、管理者による職員との個別面談の機会もつくりながら、職員一人ひとりの把握が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は常に現場の状況を把握しており何か問題などあればすぐに代表者へ報告し改善を促している 職員個々の評価を適切に行い賞与などに反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	キャリアアップ研修や国家資格取得に費用の負担やシフトの調整等を行っている 日々のケアについての評価を作り、技術向上のトレーニングなども個々に行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍から少しずつできる範囲内で研修に参加したりしながら同地域の同業者との交流を増やしていけたらと思っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に家族にバックグラウンドアセスメントを作成してもらい、それを元に本人の話を聞いたり様子観察しながら情報をまとめ職員もそれぞれ信頼関係を築き共有し安心して生活出来るように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	特に初期はこまめに連絡を取り合いながら情報交換し管理者だけでなく職員全員とコミュニケーションが取れたり、家族様が気軽に相談できる環境を作るように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ニーズを引き出す為にまずしっかりコミュニケーション取り信頼関係を築き、心の声を聴く、そこから支援の内容や方法を考えていくようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	アットホームで家族のように近い存在でなんでも話したり家事をしたり、ともに生活をしている関係作りを目指してケアを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	管理者はもちろん現場スタッフも家族様としっかりコミュニケーションを取り時にはご家族様にも協力してもらいながら支援したり様々な方法を考えることができている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	この数年コロナの影響で対面での交流が難しかったが電話やお手紙などで交流が絶えないように努めてきたのでこれから少しずつ対面交流などの機会が増えるようにしていきたい	利用者の中にはデイサービスから移行された方もあり、デイサービスとの行事等を通じて、入居前からの関係の方との交流にもつながっている。また、家族との外出も行われており、身内の方の法事等を通じた交流の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者様同士同じ作業が出来る利用者様同士で同じテーブルにしてみたり、時には席替えをして皆が関わりあえるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	近隣の方で時々顔を合わせることもあり、必要に応じて相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様本位でケアをすることを基本としており、それぞれの利用者様の情報などをカンファレンス等で共有し話し合ってケアに努めている	職員間で利用者を担当しながら、利用者に関する意向等を把握し、職員間での共有につなげている。また、毎月作成する「評価票」に参考にしながらカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドアセスメントや家族様のお話から情報等共有し過去の暮らしぶりを記してファイリングしいつでも閲覧できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントを活用しながら、また、毎月評価表を作成し様子を把握するように努め変化があれば情報共有できるようにノートを活用している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族様からの要望や日々のスタッフの観察や評価、直接聞いた要望などをしっかり計画に反映している。いつでもご要望があったときはすぐに対応できるように臨時ミーティングも行っている	介護計画については、6か月を基本に見直しが行われており、計画表を確認しながら必要な対応が行われている。また、1日1ページの記録用紙の活用も行いながら支援内容のチェックを行い、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の生活記録とは別で毎月の評価表を作成している。特記事項があれば連絡帳を活用し、情報をわかりやすく共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	やはり日々状況は変わるので出来る限りの対処やケアに柔軟に対応できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の行事などに参加したり民間の地域資源との関わりを持つように努め、施設をオープンにして施設側が地域の資源となるようにしていきたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	主治医だけでなく近隣の医療機関とも幅広く関係性をもっているし、在宅時のかかりつけ医への受診や家族の希望する医療機関など幅広く柔軟に対応支援している	協力医との定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた柔軟な支援が行われている。また、ホームに勤務している看護師が協力医療機関との連携を行っており、協力医との情報交換や医療面での支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とも職員個々や家族も気軽に相談等できるような環境であるので連携がしっかりとれている 何かあれば看護師もすぐに連絡が取れて対応してもらえる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医が入院する病院と連携が取れており施設側と病院との関係もある程度出来ているので相談に応じていただけるし敏速に対応して頂けるので安心はしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	職員は常に研修により終末期の対応など学んでいる 医師から判断が出た時は速やかに家族へお話しをして今後のケアなど方針を決め計画作成しスタッフ全員で最善のケアに努めている	身体状態が重い方も生活を継続できるように必要な支援体制がつけられており、ホームで最期を迎えることができるような支援も行われている。協力医や看護師との連携を行いながら家族との話し合いを重ね、支援可能な内容の話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時のマニュアルを作成しており、定期的に社内研修としても訓練しどの職員も対応が出来るように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練の実施 夜間の火災の想定や近くの川の氾濫による水害も想定し訓練を行っている 地区の災害訓練にも参加している	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。併設のデイサービスとも連携した水害を想定した訓練も実施している。また、事業所全体で水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	災害に関する地域の方との協力関係の取り組みについても、感染症問題が続いている状況であるが、ホーム及び併設事業所の継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	介護の基本として定期的に研修を行い自尊心を尊重し人格や背景を把握し尊厳を持った対応をすることを一番に考えている	基本理念には、利用者の人格(心)を一番に考えた支援を行う内容が掲げられており、日常の支援を通じて、職員の意識向上の機会にもつながっている。日常的にも、職員による利用者への対応について、管理者からも注意喚起等を行う機会もつづけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様のペースを見守りながら思いを汲み取り、いくつかの提案の中から自己決定しやすい環境づくりも配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に自由にマイペースに生活できるようにサポートしている。すぐに対応できないときはきちんと約束をしたりしながら最速に希望に添えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様一人ひとりの好みの服装や格好を職員は把握している 容姿が乱れていればすぐに整容している スキンケアなど愛用品の購入もしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	スタッフで作りにこだわっており、ひとりひとりの好みに合わせたり、嚥下状態にもしっかり対応できている。下準備や洗い物なども率先して手伝ってくださる利用者様もいるので協力し合っている	メニューについては、元々つくられている基本メニューから、利用者の好みや嗜好等にも配慮しながら細かなアレンジが行われている。利用者もできることに参加する機会をつづけている。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	嚥下状態などに合わせて食事の形状など変えたり摂取しやすいように器なども工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	出来る方は基本ご自身で歯磨きなどをしてもらっているが最後の仕上げを職員がチェックしている。定期的な訪問歯科もあり衛生状態も診てもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりのリズムやパターンを表にして共有し、トイレ誘導など失禁など失敗のない様に努めたりトイレの習慣を身に付けれる様に支援している	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報を共有しながら、人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考え、排泄に関する医師や看護師との連携も行いながら、利用者の排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事の形状に気を付けたり、体操や歩行運動により腸の働きが低下しないように考えている 必要に応じ医師の指導の下、便秘薬を使用しコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴日は決まっているが直前に明日が良いとか順番の希望があれば柔軟に対応している 湯温の好みやシャンプーなどの好みも柔軟に対応できている	利用者が週2回の入浴ができるように、入浴を拒む方も声かけを工夫しながら定期的な入浴につなげている。身体状態が重い方にも合わせた職員2名での支援やデイサービスの入浴設備の活用等、可能な限り浴槽に入ってもらう支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者様が休みたい時に休んでもらっている 日中も様子を見ながら声掛けもしている 部屋の温度調整などは聞きながら行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	最新の処方箋がすぐに観れるように貼ってあり情報共有や把握が出来ている 血液検査等で減薬等薬剤師とも薬の相談も行なっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	好きなことややりたいことなど一覧にしたり、保有能力を維持できるようにお手伝いなどやりがい、居場所を感じてもらえるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ここ数年コロナの影響で難しかったが少しずつ家族と出かけたりできるようになってきている 施設周りの散歩や日用品など買い物など外出は行っている	利用者がホームの近隣を散歩を行う機会をつくっている他にも、定期的にコミュニティセンターへ出かける機会をつくり、利用者の外出の機会を確保している。また、徐々に外出行事を再開しており、スーパーへの買い物やドライブ等に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の管理は施設で行っているが喫茶店など行くときは持って出かけたり、立て替えしたりしている ご自身で使う日用品(消耗品)を一緒に買いに行く事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持っている利用者様が好きな時に電話を掛けてもらっている 携帯がなくても施設の電話を使用しお話をすることもある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	観葉植物を置いている 季節に合わせて装飾をしたり、みんなでレクリエーションで作成したものを飾ったり、写真を貼っている	ホーム内は広い空間が確保されていることで、利用者が日常生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。また、リビングや通路の壁面には、季節感にも配慮した飾り付けや利用者の作品を掲示する等、アットホームな雰囲気がつけられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれのテーブル席は決まっているが、ソファや共用テーブルがあるので自由に使えるようにしている 仲良く座っておしゃべりしている光景もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時に馴染みの家具など自由に持ってきていただいたりご本人様のお好きな装飾や空間作りを家族様やご本人と一緒にしている。写真やレクリエーションで作ったものを飾ったりしている	居室についても広め中で空間が確保されており、車椅子の方も居室を安心して移動ができる環境がつけられている。また、利用者が使い慣れた家具類や家族の写真等を持ち込む等、一人ひとりの好みや意向等にも配慮した居室づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの役割や生きがいを感じていただけるように空間作りや雰囲気作りに心掛けている		